

2009.3.12

(第3種郵便物認可)

## 松本慎一氏に聞く

米ベイラー臍島細胞  
研究所 ディレクター



88年神戸大医卒、同年神戸大医学部付属病院勤務。米ミネソタ大リサーチフェロー、京大医学部付属病院臍器移植医療部助手、藤田保健衛生大府出身、45歳。

記者の

患者の立場で環境整備を

「20世紀は臍器移植の時代、21世紀は細胞移植の時代。臍島移植を実施、05年世界初の生体ドナーからの臍島移植に成功した。大阪府出身、45歳。

糖尿病の治療方法として臍島移植が注目されている。現在はインスリン注射が一般的だが、臍島移植は点滴で可能なため患者への負担が少ない。インスリン注射の必要も少ないので、臍島移植を普及させるには超えなければならぬ多くのハードルがある。NPO法人健康開発機構は15日(都内)で開催するシンポジウムで臍島移植について紹介する。この分野の第一人者で同日講演する米ベイラー臍島細胞研究所(テキサス州)の松本慎一ディレクターに臍島移植の現状と課題について聞いた。

# 糖尿病に臍島移植

NPO法人健康開発機構が15日シンポ

糖尿病の治療方法として臍島移植が注目されている。現在はインスリン注射が一般的だが、臍島移植は点滴で可能なため患者への負担が少ない。インスリン注射の必要も少ないので、臍島移植を普及させるには超えなければならぬ多くのハードルがある。NPO法人健

康開発機構は15日(都内)で開催するシンポジウムで臍島移植について紹介する。この分野の第一人者で同日講演する米ベイラー臍島細胞研究所(テキサス州)の松本慎一ディレクターに臍島移植の現状と課題について聞いた。

## 患者に点滴、負担少なく

まず米で“標準治療”に

ダやスクエードンでは標準治療として認められて

まつもと・しんいち 学医学部・外科教授など

88年神戸大医卒、同年神戸大医学部付属病院勤務。米ミネソタ大リサーチフェロー、京大医学部付属病院臍器移植医療部助手、藤田保健衛生大府出身、45歳。

2型があるが、より重病な1型糖尿病の治療に用いられている。点滴で行うため臍島移植と比べて患者への負担が少ない。インスリン注射の必要も

なくなる」

「日本での状況は、成功例を発表し、注目されるようになつた。カナメ、標準治療として受け

日本での環境づくりにも取り組まれていますが。

「日本ではまだ臍島移植が一般的だ

治療方法は進んでゐる

治療方法は進んでゐる

いる。だが、世界的にはまだ一部、臍島から臍島

入れてものもうと思ひ、本の患者さんと米国で治

療を受け、あるいは渡航臍島移植の準備を進めてい

ます。まだ臍島移植が一般組んでいる。米国では効率良く臍島を分離できる

ナダのアルバータ大学で、日本では最新医療を確立できた。その海外からの輸入する傾向が強いため、最新医療の確立には地道な作業が必要で、

成績を踏まえ、米国でも海外からの輸入する傾向が強い。最新医療の確立には地道な作業が必要で、お金や手間暇がかかるからだ。新しいアイデアを育てる土壤作りも必要だ

うな治疗方法ですか。 「臍島の中にはブドウ糖の調節に重要な役割を果たす臍島細胞がある。その細胞を臍島から分離し、患者に移植する治療法だ。糖尿病には1型と2型があるが、より重病な1型糖尿病の治療に用いられている。点滴で行うため臍島移植と比べて患者への負担が少ない。インスリン注射の必要も

ないか。 (村山茂樹)